

エッセイ

カーナビゲーション

渡辺尚夫

登山者が方位磁石を持つように、自動車にもそれを搭載したのは1977年のことである。当時は1860万台という現在の約1/3の車が、東名高速道路こそ全線開通していたものの、その他の高速はまだまだという時代の中を走っていた。そんな時代に自動車用電子方位計を開発した目的は、道路網が完備した日本の道を守るためではなく、メッカを目指しサウジアラビアの砂漠を走る車にあった。

それから30年、日本のカーナビ技術は飛躍的に進化した。1981年にはジャイロ式が生まれ、87年には電子地図を搭載し、91年にはGPS搭載型が発売された。そして1996年にはVICSと呼ばれる渋滞情報や規制情報をドライバーにリアルタイムに伝えるシステムが登場する。これからの方向としてはAHS(Advanced Cruise-Assist Highway Systems)など、道路と自動車が連携し、センサや路車間通信などの最新のITSテクノロジーを駆使して交通事故や渋滞の削減を目指すシステムが開発されている。

自動車本体においても、縦列駐車を支援してくれるシステムが誕生し、近未来のような社会になってきた。そういえばSF映画の中では、もうドライバーという言葉は存在せず、自動車に乗り込み目的地を告げれば、渋滞や事故とも無縁で、お茶を飲んでいる間に運んでもらえるシステムが登場している。電子方位計から30年、あと30年経てばそんな社会がやって来そうだ。

生まれたときからテレビがあるように、車に乗ったときからカーナビはあったという人が増えていると思う。テレビやカーナビが、視聴者やドライバーに情報を提供してくれることにより受動的な人間が多くなったのではないだろうか。サウジアラビアの砂漠ではない日本でも、カーナビのない時代は自分の判断で自分の位置を特定し、紙の地図を広げ目的地を探し、最適なルートを選択する必要があった。つまり能動的な行動を強く要求されたのである。方向音痴という人も中にはいるが、ドライバーの勘は優れたもので太陽の位置や遠くの風景などから方角を割り出し、地図を読むことと経験や記憶により頭の中にルートを構築する。更に道路標識などの外部情報を取得することにより、それらを補い目的地を目指す。カーナビは本当に便利なシステムである。それらを全て人間に代わって実行してくれるのである。方向音痴の人も、地図を読めない人も音声でそんな車を誘導する。しかし、近年カーナビ迷子という言葉も生まれている。目的地を入力しカーナビが選択したルートを進むうちに、地図には出てこない山道に入り込むというケースである。縮尺の小さな画面で周囲の状況に気付かず、自分がとんでもないところへ向かっていることさえ分からない。気が付いたときには山の中、設定をあれこれ変えても目的地に到達できないで迷子になるのである。あまりにも受動的になってしまったドライバーには、自分の位置さえ判断できない状況が発生する。もしカーナビが故障したら、サウジアラビアの砂漠に放り出されたことと同じ状況になるのではないだろうか。

常に考え能動的な行動をすることにより人間の脳は活性化する。このように受動的な使いばかりしていると、脳は退化してしまうのではないだろうか。現在65歳以上のお年寄りのうち6~7%が痴呆症と言われている。80歳以上だと25%という確率になる。これは21世紀の国民病と言われる糖尿病に引けを取らない数字であり、カーナビの進化が期待される30年後には、糖尿病と同じくらいポピュラーな病気となっていると言われている。科学的裏付けはないが、統計的にボケやすい職業とボケにくい職業があり、ボケやすいのが単純な労働を繰り返す職業に従事している人。一方ボケにくい職業は芸術家、政治家など脳の刺激が多い職業。一概にボケと言っても、その病は大きく二つに分けられ、全体の40%を占めるのがアルツハイマー型痴呆症、同じく40%の脳血管性痴呆症、残りがその他の痴呆症と言うことになる。アルツハイマーは元アメリカ大統領のレーガン氏が告知したことで有名になったが、その原因は現在でも特定に至っておらず、アルミニウム犯人説などが飛び出している。脳血管性痴呆は動脈硬化などによりできた血栓が脳に詰まることにより脳梗塞を起こし発病する。したがって動脈硬化、高脂血症などに注意していればある程度防止できる。

いずれにせよ能動的な行動をとらないと我々の脳は危ないのである。この研究誌に投稿している諸氏も、原稿はきつとキーボードから叩き込んでいると考えられる。『中原の虹』を書かれた浅田次郎氏は、原稿用紙に手で書くのが好きでたまらないと言っていたが、手で文章を書けと言われたとき、小学生のときに書けたはずの漢字が出てこないと言った経験はないだろうか。砂漠の中で目的地を探すのと、国内で目的地を探すのでは外部の情報量が圧倒的に違う。その情報を自分の脳に入力し、自分の脳で演算し、そして自分の脳から解答を出力する。そう、自分の頭の中にカーナビを持つことが、30年後25%に入らない最良の策だとは言えないだろうか。